

第38回一志会例会 レポート 平成29年2月22日



ゲスト 福川 伸次氏

一志会は、「公の精神」のもとに積極的に社会的責任を果たそうとの想いを共有する大企業経営幹部の「コミュニティー」ですが、2月22日に第38回例会を開催しました。

今回は、一般財団法人地球産業文化研究所 顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官の福川伸次氏をゲストにお迎えして、「変容する世界、日本力再生の途を探る」と題した講話をいただきました。福川氏は、東京大学法学部卒業後、1955年通商産業省入省され、内閣総理大臣秘書官、大臣官房長、産業政策局長を経て1986年通商産業事務次官に就任されました。退官後、神戸製鋼所副社長、副会長、電通総研研究所長、電通顧問、一般財団法人高度技術社会推進協会会長等を歴任し、産業構造審議会委員等も務められました。現在、一般財団法人地球産業文化研究所顧問の他、2012年12月には東洋大学理事長、2014年6月にはKDDI取締役役に就任されています。政治・経済・文化・アカデミズムを突き通す鋭い視点からの分析には定評があり、博学、多才、多趣味で飾らない人柄は各界からの信望を集め、一柳の尊敬する通産省の大先輩です。

福川氏は、冒頭、昭和時代の日本と世界の政治について語りながら、今ほど政治が何をしなければならぬのかを突き詰めることが大事な時代はないと語られました。

続いて今世界で起こっている状況を語られました。グローバル化の進展により、各国個々の力は相対的に低下し、世界は多極化が進む。その結果ガバナンス構造の変容が生じ、ポピュリズムが蔓延する恐れがある。しかし、グローバル化は、それらを補って余りある様々な効用をもたらすことから、協調と調和を確保し、この流れを維持しなければならないと述べられました。

次に、なぜ日本は停滞過程に陥ったか見解を述べられました。日本は、高度成長期に驕り、真の意味のイノベーション創出を行わなかったことから、産業力ひいては日本の競争力が低迷してしまったのだと語り、当時の状況を冷静な視点で分析されました。

最後に、これらを踏まえた上で、日本力再生への挑戦としてグローバルゼーションとイノベーションの2つに特化すべきであると語られました。人口減少期においても生産性(1人当たりGDP)向上が満たされれば経済成長は十分可能である。そのためには、経営効率追求の市場追随型経営ではなく、市場創造型経営が必要である。そして、この市場創造型経営の具現化として、産業と文化を融合させた「アートの時代の到来」を提唱されました。日本庭園や日本食等、世界における日本の文化の評価は高く、日本美に対する関心は高い。この様な産業と文化の融合において一番重要なのは「人間力」で



福川氏 卓話風景

あり、今後の日本の浮沈は、「人間力」を高めるという「人間価値主導の社会」の実現が図れるかにかかっていると結ばれました。

福川氏の洞察鋭いお話、経験豊かな福川氏ならではの日本力再生への提言に、皆引き込まれていきました。参加された会員からは、「日本の潜在力について改めて感じ、イノベーションを引き起こすべく、人間力の充実を図りたい」等の意見が聞かれました。



サラーコーポレーション 神野氏
会員スピーチ風景

続いて、会員スピーチのコーナーで、サラーコーポレーションの神野社長から、「サラーコーポレーションの今後の展開について」と題し、サラーコーポレーションのご説明と今後の展開についてお話いただきました。

その後の会員の交流時間帯では、今回初参加となる、一柳（ヒツヤギ）・ハウス食品グループ本社 経営役、野村・興和 取締役常務執行役員から自己紹介を頂きました

続いて会員からの近況報告として、和田・キューピー 取締役常務執行役員、小林・パロマ 代表取締役社長、島・島精機製作所 取締役副社長、堀内・イーサポートリンク 代表取締役社長、深澤・セガサミーホールディングス 常務取締役兼 CFO、太田・電通パブリックリレーションズ 取締役常務執行役員よりそれぞれホットな報告をいただきました。

その後も、福川氏を囲んでの交流が続き、大変にぎやかな雰囲気となりました。



ハウス食品グループ 本社
一柳氏



興和
野村氏



キューピー
和田氏



パロマ
小林氏



島精機製作所
島氏



イーサポートリンク
堀内氏



セガサミーHD
深澤氏



電通 PR
太田氏